

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873200422		
法人名	聖北会 有限会社 敬七商事		
事業所名	グループホーム すずらの里	ユニット名	1丁目
所在地	〒319-0204 茨城県笠間市土師1283-252		
自己評価作成日	平成26年7月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=rue&JigyosyoCd=0873200422-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年9月25日	評価機関 決 済 日	平成27年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当館は地域密着事業所として住み慣れた地域で安心して暮らせるようにとの理念のもと、緑豊かな環境の中に立地し四季折々の移り変わりを実感しながら生活する事が出来ます。天気の良い日は各ユニット朝の散歩散策にほぼ全員の方が出られています。その他グループ内事業所には病院、訪問看護ステーション、特養ホーム、老健、サービス付き高齢者住宅等があり協力体制が整っており体調等の変化に応じた対応ができる為安心して過ごす事が出来ます。訪問看護師が健康管理や病院との連携に努めているので利用者様は安心して暮らすことができます。また、食事は毎日カロリー計算のされた新鮮な食材を使いその時々々の体調や咀嚼の状況等に合わせて調理し、おいしく召し上がって頂けるように努めています。また、年間を通して楽しい行事もあり利用者様ご家族様共に参加していただいています。今後共ご家族様との連携協力を大切にしながら利用者様に安心して暮らして頂けるように努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

笠間市郊外の栗林が広がる静かな環境の中、利用者は職員の支援を受けながら安心して暮らしている。
管理者は職員が意欲をもって勤務ができるように職場の環境整備に努めているほか、職員の資格取得に配慮するとともに、育成にも力を入れている。
事業所は隣接する特別養護老人ホームと連携を図るとともに、利用者の健康維持に訪問看護を導入しているほか、母体が病院であるため、ほとんどの利用者は母体病院で受診して適切な医療を受けられる環境にあることから、家族等の安心にもつながっている。
100歳を迎える元気な利用者から力を与えられ、他の利用者や職員までもが生き生きと過ごしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時には唱和し館内の目に付く所に張り出し折に触れ意識できるようにしている。理念の意味についてミーティング時に学習したり唱和したりしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を玄関や各棟の事務室に掲示するとともに、職員は朝の申し送り時に唱和して理念を確認し、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の空き缶拾いに参加して顔馴染みの関係作りに努めたりおみこし見物をきっかけに毎年声を掛けて下さるなど少しずつ交流が出来るようになってきている。行事や研修時には地域の方に声掛けしている。	町内会には加入していないが、地域に住む職員からの情報を得て、岩間地区の缶拾いや清掃活動に職員が参加するほか、地域の祭りや市の栗祭り、子ども神輿には利用者も参加して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や、来所時に介護についての相談やパンフレットを差し上げたり悩みを聞いてアドバイスをしたり他事業所や相談機関等を紹介したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果が出た時点で運営推進会議に回り今後の取り組みや相談等一緒に考えてもらっている。また、地域の資源等教えてもらっている。毎回出席して下さっている家族には施設の内容を良く見てくださっているので会議の進め方にもアドバイスも頂いている。	運営推進会議は家族等の代表や岩間支所職員、消防団、民生委員、地域の代表、同一法人の特別養護老人ホームの施設長代理、当事業所の職員などで2ヶ月に1回開催し、運営状況を報告している。委員から出た意見等を職員で検討するとともに、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の運営について分からないことや疑問など分かるまで担当者に聞いたり更新申請などで出向いたときは担当者以外とも言葉を交わし施設の情報を伝えている。	職員は市の自立支援事業である後見人制度の研修に参加するほか、管理者は要介護状態が上がった利用者への介護用品支給券を、市の高齢福祉課に申請して受領している。 生活保護の利用者についての生活の様子を、市の担当者に電話で報告している。 利用者の介護保険更新申請で市の担当者を訪見し、日頃から運営上の報告や相談を通して、協力関係を築けるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修の中で身体拘束禁止の内容を学習し職員一人一人がいけないこととして自覚できるようにしている。館内を歩かれている利用者様には全ユニットで見守りの体制で自由に歩いて頂いている。	身体拘束について職員研修を実施したり、玄関は早朝や夜間以外は施錠しないなど、全職員で身体拘束をしないケアを実践している。 身体拘束が必要になった場合に備えて「経過観察記録」や「再検討記録」を備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を資料として職員研修時に学習し意識を高めるよう努めている。虐待とはどういうことなのか全員で共有し予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	自立支援制度を利用することで家族本人共に安心して過ごせるような状況が見受けられた時や家族から今後の不安について相談された時には早めに関係機関に相談したり関係者が来訪時等に相談し早めの対応に努めている。研修にも参加し学習できるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には重要事項説明書運営規定等を良く説明し疑問があれば納得できるまで説明している。今後のサービスに対する要望や不安意向など聞いてケアに活かしている。改訂の際には事情を説明し理解納得をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りの中で利用者1ヶ月の様子を知らせ、家族からの意見や要望を伝えることが出来るようアンケートを出したりして意見要望を汲み上げるようにしている。また玄関入り口の苦情受付箱に投函して下さる様お願いしている。推進会議出席時や、来所持には声掛けして要望意見等を伺ってサービスに反映させている。	利用者や家族等に対する意見箱を設置しているが、投函実績がないため、家族アンケートを実施して意見を汲みあげ、出た意見等をサービスの質の向上に反映させているほか、家族等が来訪した際に意見や要望を聴くように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティング時には代表者の出席を求め、できる限り意見を聞いてもらうようにし代表者側も意見要望を伝える場になっている。常に管理者は職員の意見要望を代表者に伝えるようにしている。	管理者は職員から日常的に話を聞くほか、ユニット毎に意見等を出してもらい、毎月行う社内研修の際に出た意見等を代表者に伝えてもらい、後日回答を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には、管理者が現場の様子を伝え職員の要望の実現に向けている。また、有給休暇の取得や資格試験の支援に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、順次職員のケアの向上の為参加させている。研修後には報告書を提出してもらい全員に伝わるよう回覧している。新人職員には責任者を決め指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他事業所とは機会があれば研修に行ったり行事に招待したりして交流の機会を設けている。運営についてもよい良い所は参考にしサービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が見学に見えられない時には直接出向いて面談し、ホームでの生活の様子やサービスの内容等伝えたり本人の望む暮らし、不安等聞いて安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から、介護についての悩みや本人の状況等聞いてその後入所までは電話等で連絡し合って関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談に見えた時には本人や既に利用しているサービス先の関係者に話を聞いたりしてグループホームへの入所が適切かどうか見極めて本人にとって一番相応しいサービスとは何かを考えている。他のサービスが適切かと思われた時はアドバイスや問い合わせ紹介等を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いながら能力が発揮できるよう出来る事を見つけお願いしたり分からない事を教えてもらったりしている。表情をみていつもと違う様子の時には話しかけをし会話のきっかけを作り話がしやすい雰囲気を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を電話やおたよりで知らせたり、ケアについて協力相談を求めたり本人がより良い生活が送れるように家族と共に支えていくように努めている。また、電話口には本人にでてもらったり、こちらから電話をつないで声を聞かせて安心してもらったりしている。面会時には居室に案内しゆっくり過ごして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人が尋ねて来られた時には一緒にお茶を召し上がってもらいながら昔の話等聞かせてもらったりしている。また、以前の知り合いが見えたときなどには居室でお土産のお菓子など召し上がって頂いている。	職員は利用者から希望を聴き取り、家族等に伝えて墓参りや自宅に外泊ができるように支援をしている。 職員は利用者と一緒に出かけた際に、利用者が元住んでいた自宅や周辺が見られるように回り道をし、利用者の馴染みの場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や手助けしてくれる人など良い関係が築けるようテーブルの配置に気を配ったり職員は寡黙な利用者様にはそれとなく話しかけてさびしい思いをしないように努めている。各ユニット間で行ったりきたりして交流している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も病院に様子を見に行ったり他施設に転所された利用者さんには、行事に招待したり家族に当てお手紙を書いたりしている。また、分かる範囲でお悔やみに伺うようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	相談、入所時に本人の希望意向を聞き取るよう努めている。本人より聞き取り困難の時には入所後に生活の様子や会話の中から本人の望む暮らしとは何かを把握するよう努め本人本位に支援できるようにしている。	職員は利用者の思いを受け止めるために日頃から話しを聴いたり、家族等には利用料金の支払い時に意見や要望等を聴くなど、現在の望む暮らしへ結びつくように配慮したり、訪問看護師が利用者から聴いたことを申し送りノートに記載し、全職員で共有して利用者本位の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴を記入できる個人表をお渡ししているほか入所契約時にききとっている。職員全員が情報を共有できるようファイルに閉じている。以前に利用のサービス状況は事業所より情報提供をお願いし状況を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の暮らし方を家族等から聞いて本人の思いや希望を尊重した上で出来ること出来ないこと得意なこと等把握するよう努めている。職員は毎朝の申し送りでは心身状態の変化についての把握に努めチームで共有し一日の過ごし方について考え支援している。入所後の面会時にも聞き取り把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成時には本人家族の意向、介護職員の意見や気づきを反映させ本人主体の計画書の作成を行うよう努めている。モニタリングは月一回のカンファレンスの意見を参考に介護職員ケアマネで行っている。	日々の記録を基に3ヶ月毎にモニタリングを実施し、介護計画を2ユニットは各棟の介護支援専門員が、1ユニットは計画作成担当が利用者や家族等、職員などの関係者で話し合い、長期目標は6ヶ月毎、短期目標は3ヶ月毎に見直をしている。 特に変化がない利用者の場合は長期目標は1年毎、短期目標は6ヶ月毎に見直をしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時家族等や職員などの関係者で話し合い、現状に即した介護計画に見直をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、実践した事結果等また食事、排泄、入浴の状況を記録し情報の共有を図っている。受診時は個人記録のほか専用のノートを作って出勤時必ず確認し経過観察に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて出来ない事について出来る限りの支援に努めている。面会時の家族の送迎や諸々の手続き他科受診入院時のお世話など安心して暮らせるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方より災害時の井戸水の提供をして下さるとの約束をいただいている。また出来る限り馴染みの関係を築く事が出来るよ近隣の店を利用している。髪のカットや買い物等も同じお店を利用するようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族には契約時にかかりつけ医に継続受診できることを伝えているが、協力病院に変更になる場合には家族を通じてかかりつけ医より診療情報を頂いて協力医に伝えている。かかりつけ医に受診継続の時は家族の同行が基本となっているので普段の状況を看護師や職員は詳しく伝えるようにしている。	運営母体の医療機関へ月1回職員が受診支援をしているほか、協力医療機関の訪問看護師が週1回来訪している。 24時間体制での訪問看護を実施しており、利用者が入院の際には訪問看護師が同行している。 眼科や整形外科などに受診の際には職員が付き添っている。 歯科診療は3ヶ月に1回訪問歯科医が来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師訪問日には健康状態の把握を行ったり状況によって受診を勧めたり自ら受診介助をして医師に病状の説明などを行っている。また、感染症の予防の方法などその時々に応じてアドバイスをもらっている。夜間の状況の変化時は電話で相談し指示をもらっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は家族に代わって洗濯の支援を行っているので看護師ソーシャルワーカー等と相談できる機会があり治療の経過や本人の様子等聞くことができる。情報は家族と共有し合うよう連絡をおこなっている。退院の件については主治医に直接聞いたり看護師ソーシャルワーカーを通して時期について聞いてもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針を基に家族と話し合いその時点での意向書を作成している。意向の変更があれば変更が出来ることを伝えている。	利用者が重度化や終末期になった場合は、最終的には入院となるが、特別養護老人ホームの事務長や訪問看護師、事業所職員で相談するとともに、方針を共有して事業所でできることとできないことを家族等に説明し、意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時は夜間想定を繰り返し行ったり消防署の協力を得て救命救急の研修を行っている。夜間は夜勤3名のうちリーダーを決め、救急対応についてはマニュアルを作成し内部の研修で確認し合ったりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に地域の消防団に所属している方に出席してもらい情報を得たりホームのアピールをお願いしたりしている。年2回の消防訓練には、夜間の想定を繰り返し行いスムーズな行動ができるように努めている。	夜間想定での避難訓練を利用者と職員が協力して年2回実施をしている。 訓練後反省会を開き、参加した職員で訓練時の問題点を話し合い、次回に活かしているほか、レトルト食品や水、カンテラなどを備蓄しており、備蓄品リストを作成するとともに、数量や消費期限等の点検をしている。 事業所は近隣住民の住まいとは離れているが、系列の特別養護老人ホームが隣接しており、緊急時の協力体制を築いている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗時や、朝の申し送り時の声の大きさに気をつけて個人が特定できないように注意を払っている。理念に尊厳の保守を謳って意識付けをしている。ケアの中で不適切なことが見られた時はその都度話し合っ軌道修正している。	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握して人格を尊重するとともに、プライバシーに配慮し、言葉遣いに気を付けながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が表出できない利用者様には表情を見て声掛けし、ユーモアを交えたりして言い出し易い雰囲気作りに努めいくつかの選択肢を提言しその中から自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを尊重しその日の体調や気分に合わせて過ごして頂いている。仕事のお手伝いや、休息、テレビ鑑賞、塗り絵等本人の希望にそって過ごして頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重しながら、朝の着替え時に選ぶお手伝いをしたり外出時や行事の時には気分転換が出来るよう職員と一緒に相談しながら洋服を選んだりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は同じメニューを咀嚼の応力や体調に応じた形態で召し上がっていますが時々食べたいものを聞いてラーメンやパン、にぎり寿司などを提供しています。お手伝いの出来る方にはほんの少しでも関わって頂いています。	職員は利用者が入居の際に一人ひとりの好物や苦手なもの、歯の状態を把握しており、利用者に合わせた調理に工夫をしている。利用者が喜びそうなラーメンや寿司、こころの医療センターのレストランで外食をするなど、食事を楽しめるように支援をしている。職員は見守りや声かけをしながら食事介助をしているため、一緒に食事することに無理はあるが、楽しくおいしく食べられるように雰囲気づくりに気を配っており、動ける利用者は下膳やテーブル拭きをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量のチェックを毎食行っている他、食事時には一緒に席について飲み込みや食事の進み具合の変化などに気を付け見守っている。食欲不振が見られた時には、看護師介護職が継続して見られるよう情報の共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯は就寝前にはずしてもらい消毒しています。歯ブラシ口ゆすぎコップはいつでも使うことができるよう目に付く所においています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄をモットーにし日中は全員がトイレでの排泄をされています。夜間は、能力に応じた排泄の方法で出来る限りオムツの使用をせずポータブルトイレを使用したりトイレ介助等を行っています。	職員は利用者からの訴えのほか、利用者の状態を察してさりげなく声かけをしてトイレに誘導している。夜間はポータブルトイレの利用を嫌がる利用者に配慮して適切にトイレに誘導をしている。職員の声かけや誘導により、利用者のパッドの使用量が減少したり、おむつから紙パンツや布パンツになった利用者が多いなど、排泄の自立支援に熱心に取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師介護者が連携を取って排泄チェック表を活用し定期的な排便が出来るよう心がけている。乳酸菌飲料や牛乳の宅配を利用したり定期的に歩く時間を設けたりラジオ体操を全棟で行って個々に応じた便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は各ユニットがほぼ毎日行っているため体調や気分に合わせて入浴をすることが出来ます排泄の失敗の時等には時間に関係なく清潔にして頂いています。車椅子の方には特殊浴槽でゆっくりと肩まで温まってもらっています。入浴剤を使ったり、季節感を感じられるような菖蒲湯やゆず湯なども行っています。	一般家庭の浴槽と機械浴槽を設置しており、危険のないよう職員の介助で利用者は基本的に週2回以上の入浴を楽しんでいる。入浴を拒む利用者の中には時間をずらしたり、翌日にするなどの工夫をしている。冬でも快適に入浴ができるように脱衣室には電気ストーブ、浴室壁面には暖房設備を設置している。季節毎に菖蒲湯や柚子湯のほか、入浴剤を使用して入浴が楽しくなるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の習慣や本人の希望を大切にし昼寝や休息等して頂いています。夜間に寝付けない方には日中の過ごし方に気を配ったり、夜勤者は飲み物を出したりお話し相手になったりしてゆったりと時間を過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の最新の処方箋は個人ファイルに閉じいつでも見られるようになっている。薬変更があった時には受診ノートや個人ファイルに記入している。服薬は責任を持って行えるよう与薬者は押印を行っている。薬効や副作用については看護師が中心となって観察を行い介護職と情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意分野、好きな食べ物等は家族に聞いたり個人表等を参考にしたりして、メニュー書きや洗濯たみ野菜の皮むき等お願いし感謝の言葉を伝えている。嗜好品は家族や本人から希望を聞いたり声掛けしたりして個別の楽しみを持つことが出来るよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誰でもが外出の機会を持って気分転換が出来るよう計画したり、個人で希望があれば買い物や食事に出かけられるように努めています。毎年のお花見は全員が参加をモットーにしています。	利用者は職員と一緒にこころの医療センターのバリやフリーのレストラン等を活用したり、お花見や外食をしたりして気分転換を図っている。 利用者は車いすで市内の公園に職員と出かけているほか、ボランティアの協力を得て外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布やハンドバックを自己管理されている方はいますがもち出しては眺めたりしています。玄関前の自販機に誘った時は本人が選べるようお手伝いします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が疎遠になっている方には電話を掛けたり取り次いだりして声を聞かせている。暑中見舞いや年賀状には一文字でも本人の直筆が見られよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの和室の障子を開けるようにして四季折々に変化する景色が見られるようにしています。、トイレや洗面所は一日何回か見回って気持ちよく使えるように努めています。職員の自宅の草花等を飾るようにして季節感を感じられるようにしています。	各ユニットの居間兼食堂の天井は高く圧迫感がないため、利用者は食後も寛いで利用者同士の会話を楽しんでいる。 台所の配膳台を低く広めに設置し、利用者が食器を楽に置くことが出来るように工夫をしており、台所からも利用者の様子が良くわかるようになっている。 トイレに介助バーを設置し、利用者が安心して立ち上がれるように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	疲れてしまった時や一人で過ごした時は、玄関ホールの椅子やリビングのソファ等また居室で自由に過ごされている利用者さんも居られます。外のベンチで気の合う同士でジュースを買ったり外の景色を眺めたりして過ごされてる事もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には出来るだけ自宅に使っていた衣類や寝具などを持参して頂くようお願いしています。位牌や馴染みのベッド、シルバーカー等持参されています。	利用者の居室は畳の部屋にベッドやエアコン、カーテンが備え付けられている。 利用者は自宅から布団や使い慣れた収納箱、整理筆筒、位牌、座椅子、家族の写真、時計などを持ち込み、居心地よく落ち着いて暮せるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーとなっており手すりも設置されて移動の手助けとなっています。トイレの場所や居室が分かりやすいよう目印や看板をつけるようにしています		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input checked="" type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input checked="" type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input checked="" type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム すずらの里

作成日 平成27年2月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1		評価機関より「次のステップに向けて期待したい内容」の項目はありませんでした。			
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。